

# 令和5年度 第2回学校運営協議会 議事録

日時 令和5年10月4日(水) 9:00~11:00

場所 岡山県立西備支援学校 視聴覚室

## 参加者

H会長、A委員、E委員、B委員、C委員、I委員、D委員、F委員、校長  
副校長、事務長、G教頭、J教頭、K教頭、L教頭、M主幹教諭、N指導教諭

## (1) 開会

### ①開会挨拶(校長)

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。令和5年度が始まり、アフターコロナとなり、修学旅行や宿泊学習は今年度から従来の計画で実施でき、地域の資源を活用できている。社会情勢の変化により、今までの教育活動に変化が求められている。また、令和の日本型教育の推進も求められている。次年度に向けて第3回でも提案していきたい。本日は学校見学、虐待防止、安全教育について報告したい。安心安全な学習環境作り、地域との連携にも力を入れている。委員の皆様には学校の外からの視点でご意見をいただきたい。

### ②日程説明:水野副校長

## (2) 学校見学 ①運動場

- ②知的障害部門中学部 (日常生活の指導・朝の会)
- ③肢体不自由部門小学部 (日常生活の指導・朝の会)、  
肢体不自由部門中学部・高等部 (日常生活の指導・朝の会)
- ④知的障害部門小学部 (朝の会・朝運動)
- ⑤知的障害部門高等部 (校内実習)

## 意見交換

H会長 西備支援学校は地域との交流を一生懸命するようにしているということですが、地域との交流をする中で、この西備支援の、今見ていただいた、校内のいろんな強み・資源をどのように活かして、地域とつながることができるでしょうか。また、校内を見ていただいた感想でも構いません。

D委員 私はここの堆肥が好きで、いつも使っている。とても品質がいい。ホームセンターのものと全然違う。そういうことをもう少し宣伝をされてもいいかな、そして消費者の意見を聞いたりすることなどが交流できる場所かなと思いました。私は学校が堆肥を販売してくれる限り、利用させてもらいたいと思う。

H会長 堆肥はどこで購入できるのだろうか。

K教頭 井原市美星町「星の郷」や笠岡市「おかげ市」で販売している。なかなか生徒たちが学校の外に出て活動する回

数も限られているので、消費者の方々のニーズにお応えできるような販売回数を確保できないかもしれないが、少しでも改良できたらいいかと思っている。

H会長 よく直売所などに行ったら、作った人の顔写真を貼ったりしている。西備支援の生徒がこのようにして堆肥を作りました、というものを貼ったりしているか。

K教頭 美星のお店では広告を掲示させてもらっている。お店に来られた方には見てもらっているが、広くアピールはできていない。

H会長 他にありますでしょうか。朝の会を見ていただいたが、こういうのが西備の資源だ、というのはなかなかわかりづらいところがあったかもしれない。

F委員 今子供が中学部1年生になったんですけども、小、中、高と各部によってその子にあった活動内容をしっかりと先生方が協議して、無理なくその子の特徴を活かした教育をしてくださっているので、ぐっと成長をさせていただいている。家ではできないことを学校で活動できていることが、この子にあった教育をしてくださっているんだなと感じる。その時その先生がしてくれる対応で、その子の心が豊かになったり、笑顔もたくさん見られたりしている。高等部の実習も、子供たちは、大変だという感じを見せず、自分の体調に合わせて活動をしているのを、先生もしっかり見てくださっていた。子供たちは、とってもいい顔で授業を受けているという印象を受けた。

H会長 成長過程に合わせた問いかけといいますか、教材を考えられて、そして子供たちの経験を生かして、それが外に向けて、一緒に活動できるヒントになればいいかなと思います。

B委員 1学期に韓国の支援学校とオンラインで交流してきた。韓国ではネット販売やふるさと納税の返礼品として支援学校の製品が使われている。O市もふるさと納税で野菜やお米を出しているが、学校として参加したら全国にもアピールできるのではないかな。制度的には可能だと思う。

H会長 ふるさと納税はどのように登録しているのか。

B委員 市役所で登録する。西備としてふるさと納税の返礼品として登録できるものはあるか。

G校長 野菜は出荷時期があったりする。クッキーやそのほかに何か考えられるか。

K教頭 さき織りなどの製品などが考えられる。

B委員 春夏秋冬と送るものが違う。10万円以上の寄付に対して、2万円か3万円分のもを送っている。

### (3) 協議

#### 【議案】虐待防止の取り組みについて（副校長）

「学校における虐待対応の流れ」と、本校で9月に行いました「虐待防止のチェックリスト」を資料としてお配りしています。今日は、虐待防止の流れについて簡単に説明し、その後チェックリストの集計結果と本校教員が行ったコンプライアンス研修の結果について、説明しますので、ご意見をお願いします。

社会の中で若年者、児童生徒への虐待や、障害者の虐待が取り上げられることが増えてきています。社会の目がそちらに向くようになったことかもしれませんが、社会情勢を受けて虐待自体が増えてきているのかなと心配されるところであります。虐待に関する法令等も整備をされてきました。学校といたしましても、社会の動きに遅れることがないように、そして学校としても人権意識を研ぎ澄まして児童生徒に

対応できるように進めているところです。基本の法令等につきましては資料を見てください。学校で取り扱う虐待の内容は、「2」のところにあります身体的虐待、それから心理的虐待、性的虐待、ネグレクトへ対応していくということになっております。施設等におきましては経済的虐待というのがこれに加わってきます。

学校としては、早期発見に努める努力義務がございますので、しっかり児童生徒を見ていこうということで、この資料に基づいて共通理解をして進めています。虐待を発見した時には早期に対応できるようにします。

コンプライアンス研修は、チェックリストを使って教職員がチェックをした後に、推進改善シートに沿ってグループを組んで、話し合いをしました。その結果をご覧ください。

1という結果は、全員が1を選んだ、できているというところを選んだということです。1番とか、それから4番の項目につきましては、全員が、できているということになります。点数が低いところで2と13と16という項目があります。今日は主にこの項目についてお話をしたいと思っています。学部ごとに結果を取ってみますと、このような結果になっています。左側から知的障害部門の小学部、中学部、高等部、1番右側の黄色が肢体不自由部門です。障害の状態や年齢によって教員の対応が違っていることが分かります。障害の状態によっても教員の思いが違ってくることがここで見て取れるところです。

取り組みとしてできていないという意見が多かった「人格の尊重」の内容は、児童生徒への接し方と呼称です。やはり年齢が低い場合、あるいは重度心身障害のお子さんに対しては下の名前で呼んでしまうこともあるようです。小学部については、下の名前に「さん」をつけて呼ぶということも行っています。

それから、ここにある「トイレの誘い」ということですが、私が夏に行きました、主に施設での対応に関わる研修で、みんながいる中で、「〇〇さんトイレに行きましょう。」とか、「〇〇さん、トイレですよ。」とかいうと、これ自体が虐待に当たるということを学んできました。これが学校としては意識が薄かったところで、これを先生方に投げかけたところ、まずA高等部の回答としては、やはりしっかり意識して行わなければいけないことだ、みんなで行くことで自然にできるようになるのではないかというような話し合いが持たれました。それから、「おむつ」などの言葉を使うことや、それを処理する時の持って行き方も注意をしないといけない、という意見が出て、工夫をしていこうということになったようです。排泄介助の連絡を取り合う時には、生徒の名前と一緒に呼ばないようにしようというような意見が教員の中から出てきました。次は、B部門とA中学部になります。別の言い方にするという意見もありますが、目が離せない児童生徒が多いところについては、安全の方が優先するのではないかという意見もあります。これは良し悪しという判断にはならないところですが、このような教職員の意識につきましてもご意見を後でいただけたらと思っています。A中学部では、排泄介助の際の言葉がけにはしっかり気を付けていこう、名前と一緒に教員が連絡を取り合うことはしない方がいいという意見も出ています。

13番の項目につきましては、お手元にありますチェックリストの内容で確認をお願いいたします。13番というのが、他の職員のサービスの提供や児童生徒への対応についての問題があると感じたことがあるかどうかという内容です。ここについても、安全のために児童生徒を閉じ込めるということではなく、教員と一緒に部屋の中で鍵をかけるということが行われていることがあります。このことについては、やはり児童の安全が最優先ではあるけれども、これは児童生徒ではなくて大人の都合ではないのか、児童を守るためには大切だということも踏まえて児童に伝えてはどうかというような意見がありました。でも、なかなかタイミングとして言いづらいよねというような意見もあったようです。児童生徒も教

員も、教室から出る目的というものはしっかり確認をして、無理に止めたりであるとか、無理に鍵をかけて出られなくするというようなことはやはりしない方がいいのではないかなという意見も出ています。

それから、威圧的、無視をするというようなことはないだろうかというような質問項目がありますが、これも、自分としてはいいと思ってやっているんだけど、他の人の目にはどう映るかはわからない。それから、場に応じて、児童に応じてとなるけれども、やはりなぜそうしているのかをきちんと説明できることが大切だというような意見が出ています。

続いて、13番と16番の項目です。16番は、虐待と思うような行為を行っている場面を見たことがあるかという項目です。それがあつた場合は、その行為が続いているかどうかをしっかりと見ていく必要があるという意見が出ました。そこで指摘をした時に、同僚に教育的指導だと言われる場合には、なかなか言いづらいよねっていう正直な気持ちも出てきていました。ただ、誰に見られても正しいと言える言動をやはり常にしていけないといけないし、自分が感情的に「怒る」と「叱る」という違いをしっかりとわきまえて、「自分は、今、怒ってる」と気付けるようになっていけないといけないという意見が出ました。これを踏まえてしっかり行動してから、これからどう改善していくかという話し合いになったようです。

その他の項目につきましては、各学部から出た意見をまとめてみました。資料をご覧ください。

今まで、私たちがなかなか気づけなかった点に、「児童生徒の同意を得ることなくカバンの中を見てしまう」ということがあります。児童生徒がいない時であるとか、いても断りなく見てしまうということが時にあるのですけれども、やはりこれについても児童生徒の同意を得るということで、断ってからやるということは必要ではないかとまとまりました。人権を守ることを常に意識していきましょうというような話し合いが持たれました。

それから、些細なことを見直していこうという意見が出たようです、感情的になるというようなこともあるかもしれない。高等部になると年齢が高くなっていきますから、命令的な口調で言うこともあるかもしれない、だけど、やはり一呼吸を置いて、こう冷静になって、間をしっかりと持って対応していくことが必要だということで、問題点を出し合って、みんなで意識をしていくことが必要だというまとめになりました。そして、教師の視点ではなく、生徒が分かっているかどうか、生徒に分かりやすく伝わっているかということを考えていくことは、これからも努力が必要であると考えます

以上になります。この取り組みにつきまして、皆様のご意見をいただけたらと思っています。よろしく申し上げます。

H会長 虐待防止について西備での取り組み、特に防止チェックリストを実施しての分析を説明してもらいました。このことについて質問、ご意見がありますか。学校における虐待対応の流れがありますが、これまで実際に対応したことはありますか。

副校長 ありました。事例に応じて対応しています。

H会長 数件ですね。O学園ではどのような取り組みをしているのですか。

I委員 O学園でもやっている。「人権チェックリスト」というものがある。このなかに虐待の項目があ

る。呼称や部屋の鍵について職員の話になる。見方によっては虐待ととれる場合もある。大人の都合が強くと出てしまうと不適切に思うことはある。しかし、子供の安全のことを考えるととても難しい。大人の都合で鍵をかけることはできるだけしないようにしていきたい。日々の振り返りを大切にしていきたい。職員間でも気になる発言がある。それぞれの気付きを促すことは大切。全体研修の後、気になることがあったら話をすることができたらいいなと思っている。事前に芽を摘んでいくために、日頃のコミュニケーションを職員ととっていくことが大事だと考える。

A委員 主任児童委員や民生委員として地域の研修で虐待について受けている。とても細やかである。市内の中学校でわいせつ行為があり、それに対応する取り組みなのかなと考える。気になる家庭はたくさんある。関係機関に繋ぐという意識が大切。行政や SC、SSW に対応してもらうようにする。より細やかな対応が必要だと思った。

H会長 先ほどの報告を踏まえて、虐待というのは、それぞれの先生方の人権感覚がどこまで磨かれているかによって防ぐことができることが1つと、それから、職員間でどれだけコミュニケーションが取れて、些細なことでも疑問に思ったらその人と話せることができる関係性を持つことができるのかということで、些細なことからおかしいなと思うことを早期に摘んでいく。そして問題点を洗い出して、みんなでこういうことがあったんですというのを出し合ってみることで、みんながそれでまた次に共有できると思いました。

それから、いろんな方との連携、繋ぐという言葉がありましたけど、連校内での連携が必要になってきますよね。私もある事例から様子を細やかに見ていくというのも特に支援学校では求められていくのかなと思いました。

今日は本当に細やかな資料を作って、反省したり対応したりしながら次のステップに進んでいこうという話がありました。これを続けていただいて、先生方が起こさないということ、起こしてしまった場合に、特に犯罪になったりする可能性もなきにしもあらずなので、気を付けながらやっていていただければと思いました。ありがとうございました。

#### (4) 報告

##### 【安全教育について】(G教頭)

令和5年度の避難訓練では、「みんなが分かって動く」ということをテーマにして取り組んでいます。みんなが分かって動くということはどういうことかということ、まず何が起きたから避難をしなければいけないのか、どこで起きているから避難しなければいけないのかという2点が分かった上で、災害によって、また災害の発生場所によって取るべき行動が変わってきます。どのように行動すればよいのかということを見守る児童生徒の教職員もしっかり分かって行動に移すことが大変に大切になってくると考えています。そのために、各避難訓練の前には事前指導を行って取り組むようにしてきました。

避難訓練の内容についてですが、まず4月には地震避難訓練を行いました。地震対応についての訓練は毎年2回ずつぐらい行っていたこともあり、児童生徒、教職員共に落ち着いて対応することができていました。昨年度机の下に入っているけど、頭だけ隠して体の部分は机から出ていて危ない避難の仕方をしていた子供たちについても、事前指導する中で落ち着いてきちんと身を守る体勢が随分と上手に取

れるようになりました。今年度、4月の地震避難訓練については、二次避難ということで、それぞれの近い場所での避難をした後、運動場に全体で集まる訓練までやったところ、日頃の訓練の成果で、子供たちがきちんと列を作って移動することもできるようになっておりました。

5月には不審者侵入時対応訓練を行いました。これは児童生徒を対象にした訓練でした。昨年度から始めてまだ2回目の訓練だったんですが、不審者が入ったらこのように行動するというを事前にしっかり学習しておくことで、担任のそばで安全の確認ができるまでの時間を静かに待つことができました。

7月に職員研修として教職員対象に不審者侵入時の対応訓練を行いました。教室内に静かに刃物を持った不審者が侵入してきたらということで訓練しました。今までの訓練は、不審者が声を出して侵入に気づくという想定での訓練が大半でした。そうすると、教室いきなり刃物を持った男性が入ってくると、もう怖くて声が出せないか、動こうにも体が動かなかった先生がたくさんいました。そして静かに刺して歩くので、隣の教室でそういった犯行が行われているということに全く気付かないで、2教室はもう静かに刺されて、そして何かざわざわするなって思って、廊下に出た先生も刺されてしまい、廊下で倒れてしまい、でも、その倒れた人を助けるすべもないというような悲惨な訓練になりました。その訓練を行うことで、今までのマニュアル通りの行動や、今までこの対応でいいんだと思ってたことが、このままじゃいけないとなっていうことに先生方自身気付いて、たくさんの課題がこの訓練を通して明らかになりました。その後体育館で万が一何かあった時に身近なものを使って子供たちを守るための訓練を行いました。ものすごく先生が一生懸命取り組んでくださったように思っています。

続いて、9月には火災避難訓練及び保護者引き渡し訓練を行いました。火災避難訓練については今年度初めてでしたが、毎年やっているものなので、マニュアルを見て行動してもらえば大丈夫かなということで、あまり詳細に事前に打ち合わせをせずに訓練を行いました。しかし、地震の訓を繰り返しやっていたので、火災の時どうするのかというのが、1年半空けると子供たちだけじゃなくて職員の方も分からなくなっていたということが分かり、再度確認が必要だということをお話ししました。保護者引き渡し訓練ですが、大体保護者引き渡し訓練は参観日の後に行っていたのですが、今年度は意図的に参観日とは違う日にやることで、事前に保護者の方が学校に迎えに来ることにし、自宅や職場から学校に迎えに来るまでにどんな準備をしておかなければいけないのか、兄弟がいたらどうしたらいいんだろう、家族の安否確認の仕方はどうするのかというシミュレーションカードを配付して考えていただくことで、実際にかかる時間をかけてお迎えに来ていただくような訓練の仕方をしました。

今後の訓練ですが、今後もやはり1番大切なことは、繰り返し訓練を行っていくということ、それから、その中でいろいろな状況を想定して取り組むこと。もう今までの想定が通じなくなっているようなケースもたくさんあるように思います。そういった辺り、こちらの想像力を広げながらいろんな訓練を想定していくことで、いざという時にまず職員が落ち着いて行動でき、そして職員の落ち着きが子供たちに伝わって、それぞれが主体的に判断して行動ができるようになるのではないかなと考えております。

#### 【ボランティア活用について】(M主幹教諭)

ボランティアを活用しまして、教育活動を豊かなものにしていくために、それから、教職員の業務改善ということで、多様な方に本校の学習活動に参加して協力していただけたらと思って、進めております。現段階では〇市社会福祉協議会にボランティアの募集をご依頼し、〇市中央公民館の方に募集のパンフレットを置かせていただいております。また、笠岡市スポーツ推進課の方から、障害者スポーツの指導の

方を派遣していただくようお願いをしております。それから、大学の方になりますけども、新見公立大学、川崎医療福祉大学、環太平洋大学、くらしき作陽大学をお願いをしております。その他 2 名、デイサービス職員と本校元職員の方がご協力くださいます。そして、新しい取り組みとして、O 高校のボランティア部に協力していただいて、11 月 11 日のせいび祭で 10 名以上の協力をお願いしています。課題としましては、多様な年齢層の方に、協力していただきたいと考えておまして、地域の方のご協力を得られるように、ボランティアを募集して参りたいと思います。もしお知り合い等ございましたら、協力の方よろしくお願ひしたいと思ひます。

#### (5) 提言

H 会長 最後に各委員の皆さんからご感想や今日の協議のことについてお話を聞きたい。

C 委員 虐待のお話を聞きながら、自分自身気が付かないうちに虐待というか、人権について常に心がけて、気を付けておかなければやってしまうなというのが分かったので、非常に自分自身の教訓になりました。チェックリストは細かく分類されてあって、非常に感心させていただきました。こういうのを日頃から数を重ねて、研修をすることが大切と思ひました。

D 委員 私も実は同じようなことを考えていました。人間って 100% じゃないので、何かしら欠点がある。人権意識が高い人でも実際に地域で暮らしていても、この人はこうだと思ふところがあって差別意識を持ってしまっている。すべての人が普通に接していける世に考えていかなければいけない。その辺りは、協議会を通して自分に置き換えて考えていきたいと思ひました。すごくよい取り組みだと思ひました。

F 委員 虐待については自分に置き換えてしっかり向き合つて考えていきたい。もう一つは、避難訓練によつても、毎年同じことをするのではなく、新たな取り組みをして、子供たちに指導をするっていうのは、本当にすごくありがたいことだと思ひます。

I 委員 広い校内を見学させていただいた。高等部の生徒が作業を一生懸命されていて、爽やかな挨拶をしてくださつて、気持ちがいいと感じました。ここにある資源を活用して、生徒さんたちの手や力をそこに加えることで、商品化されているということが、一人一人のお子さんの自立に向けて行われていることが伝わってきました。O 学園でも、プランターでミニトマトやキュウリを植えています。そこに子供たちが水やりをしに行く等の体験をしている。体を使って体験すること、そして、自分たちの体を使って学んだことがどんどん身に付いていき、収穫した野菜を食べてみたらとても美味しいという体験に、繋がっていく。学園でやることがもっと力になって、社会に向かつて、自立に向かつている姿があるということを見させていただきました。

E 委員 久しぶりに学校の中の方まで見せていただいた。特に高等部 1 年生の校内実習が始まっているということで、私たちのセンターと生徒さんたちが関わるのは本格的には卒業された後になりますので、ここがスタートになるんだっていうところを見ることができてよかった。皆さ

んすごくいい目標を設定されていて、頑張ろうっていう気持ちが伝わってきた。卒業すると、皆さん多かれ少なかれ働くということに関わるようになると思うので、働いてたら、頑張っていたらいいことあったというように、実習でもそういったところに繋げていけたらいいのかなと思いました。

A委員 1週間前に主任児童委員学校を訪問させていただきました。研修した後帰りのバスの中で、私たち地域の住民でできることを何か一緒に考えたいという話になりました。また何かありましたら連絡させていただきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

H会長 今日は虐待防止と報告と校内見学がありました。今日の話で1番大切なのは、人間関係を構築するということ。そのために、コミュニケーションが必要であること。コミュニケーションを取るためには、先生児童生徒も1人の人間としての個性がありますので、そこをどう捉えていって、お互いを認め合いながら、それぞれの思いをしっかりと育てていくということになっていくのかなと思いました。参加された委員もそれぞれ立場や考えが違いますけども、虐待については、かなり皆さんしっかり取り組まれているなと思われるようでした。これからはしっかりとこの辺りを取り組んでいただければありがたいかなと思います。

副校長 皆様、ありがとうございました。たくさんのご意見をいただきました。これを今後に生かしていきたいと思っています。次回は2月頃にまとめの会を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

#### (6) 閉会 (校長)

本日は貴重なご意見、またご提案の方いただきましてありがとうございました。今、学校ではいろんなことの見直しということが求められています。子供たちの教育活動は本当にこれでいいのかというところは、今までやっていたからそのままということではなく、目的であるとか狙いといったものを見直しが必要になってきております。そしてボランティア活動の報告の中にもありましたが、働き方改革が進められており、夏には文科省から緊急提言という形で出ています。学校というところは、今本当に皆さん方が注目されているのだと感じています。今日提案させていただいたものについては、学校の教育の基本的なところ、ここだけは崩したくないというところについて提案をさせていただいております。今日伺ったことを中心に、今後改善を図っていきたい思います。本日はありがとうございました。今後またよろしくお願いいたします。